



ウプト

w p w t



ウプトとは、古代エジプトのヒエログリフ（象形文字の一種）で、「伝達する人」の意味。エジプト古王国の碑文などに見られ、19世紀初めにフランスのシャンポリオンが解読している。



特集

5月26日に開催された硬式野球部とハンドボール部の優勝報告会

硬式野球部 & ハンドボール部 春季リーグW優勝!

なぜ化学に

近頃「なぜ化学を目指したのか」と問われるようになった。ドラマのように「どうする?」と思い悩んだ記憶もなく、直感的に「何となく」感じていたが、「次の3つの出会いです」と答えている―それは父のくれた本、中学校・高校の理科の先生、大学での恩師。

筆者はいわゆる理系であり、一方で父は文系の高校教諭であつたが、折に触れ自然科学の本を買い与えてくれた。例えば『天文の図鑑』の月着陸船に憧れ、飛行機が趣味となつたが(写真1)、何より『物質の変化』など理科の本を読みふけた。物質が原子や分子からなり、美しい色と形で神秘的に変化するのに驚き、これが化学へ進んだ最初のきっかけであつたろう。

中学校に進み、当時の「第一理科」担当の山上智男先生に出会つた。授業では「水素、酸素…」と元素記号を即答するクイズがあり、正解しないと「しっぺ」を受けたため、先生は「しっぺの山上」と呼ばれていた。「体罰」などと物議を醸すこともない、おらかな時代だった。そんな先生に惹かれて「第一理科クラブ」に入った(写真2)。近隣の井戸の水質調査を続け、夏休みには、先生の指示で鉄釘の腐食と酸性度との関係を調べる「自由研究」もした。結果を学園祭で発表し、それが最初の「口頭発表」となった。

高校でも熱心な先生に出会い、化学を「得意科目」と自認していた。実験校でもあつて進取の授業が試みられ、生徒が自ら



写真1: 中部大学 居室で(化学が飛行機か?)

先端研究センター
澤本 光男 特任教授

CONTENTS

桃園四季 P01

なぜ化学に

澤本 光男 特任教授

特集 P03

硬式野球部&ハンドボール部 春季リーグW優勝!

A Friend from Abroad P06

医療のプログラム開発に携わり、 多くの命を救いたい

カン ティ フェンさん

特集レポート P07

2022年度決算報告

学生編集委員のページ P09

図書館探索

学生編集委員のページ P11

ウプト学生編集委員の 活動を紹介します

CU Sports Spirit P13

基礎スキー部

東海学生基礎スキー連盟最多優勝!

わがクラブ P14

白球に熱い思いを乗せて

ソフトボールクラブ

ようこそわが研究室へ P15

線虫と宿主の関係性と 生体防衛反応について研究

長谷川 浩一 研究室

私の学生時代 P16

学びを通して知る自分

ケビン・ジャンボル 講師

Free Talk P17

ビジネスプランコンテストを 通じて感じた成長

安井 文香さん

活躍するOB P18

憧れの職場で働くために

益田 晃太郎さん

CAMPUS NEWS P19

全学学科対抗スポーツ大会 etc.

Random Shot P22

大学の良さを伝えたい

牧野 文香さん

計画して化学実験を行い、大学で習うはずのエントロピーや混成軌道なども教えてもらった。結局迷わず大学は化学系に進んだ。

大学では、3回生になり高分子化学担当の東村敏延先生に出会った。また質問に来たかと苦笑されたが、先生の研究室を志望し、やがて助手に採用され、共に30年以上も研究・教育に携わる幸運を得た。先生はどう思われていたか不明だが、筆者には心が響き合うように感じ、教授室で研究や人生について夜更けまで話し込んだ。先生は、恩師であるとともに「第二の父親」のように感じ、さらに化学への没頭が進んだ。

筆者のような理系は論理的であると信じられているが、人生の節目の決断や研究での判断は、「何となく」と直感的である場合も多いように思う。

本をくれた父も、しつぺの先生も、第二の父親の恩師も、既に鬼籍に入られた。恵まれた出会いに感謝し、若い世代には、心が響き合い、尽きることはない好奇心と意欲をかき立てる出会いと直感が訪れるよう、少しでも力を尽くせればと思っている。

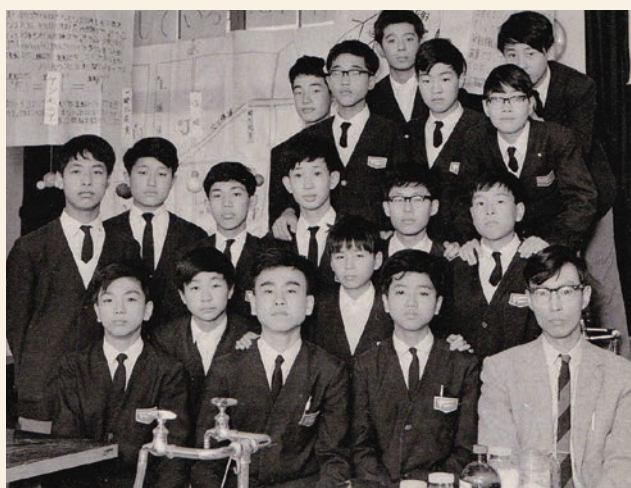


写真2: 中学校での第一理科クラブ (前列右端が山上智男先生、左から3人目が筆者)



澤本 光男

さわもと みつお

京都大学大学院工学研究科博士後期課程高分子化学専攻修了。工学博士。高分子化学、精密重合、が専門で、科学技術振興機構研究主監、日本化学会常務理事を務め、紫綬褒章、フランクリン・メダルなどを受賞。趣味は飛行機、読書(推理小説など)。



硬式野球部 & ハンドボール部

春季リーグ W優勝!

春季リーグで優勝し全国大会に出場した硬式野球部と、同じく春季リーグで無敗の完全優勝を果たし、西日本大会出場権を獲得したハンドボール部を特集します!

2023年度愛知大学野球連盟春季リーグ1部優勝、 第72回全日本大学野球選手権大会出場!



2023年度愛知大学野球連盟春季リーグ戦において硬式野球部は、自慢の打撃力と堅実な投手陣の活躍により、名城大学との最終戦を前に7勝2敗勝ち点3で2位につけていました。5月20日に行われた首位の名城大学との直接対決1戦目では、5回に清水智裕捕手(日本語日本文化学科3年)の2ランホームランで2点を先制すると、先発の肥田雄策投手(経営総合学科2年)が7回を無失点で抑える快投を見せ、2対0で優勝に王手をかけました。

続く21日に行われた2戦目では初回、佐野太陽内野手(日本語日本文化学科4年)のヒットを皮切りに打線が爆発。11対2で勝利して逆転優勝を飾り、全国大会への切符を手に入れました。



全日本大学野球選手権大会ベスト16!

次大会へ希望のアーチ

2回戦
6月7日

会場: 東京ドーム

対 富士大学
(北東北大学野球連盟)

中部大学 1 - 4 富士大学

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
富士大学	0	0	0	0	0	2	0	2	0	4
中部大学	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

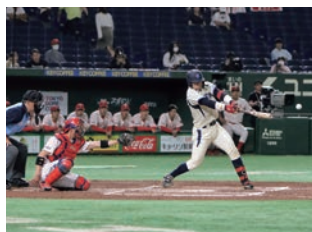
打線も北東北大学野球連盟1位の防御率を誇る富士大学投手陣の前に追加点を奪えず、1対4で敗れ、ベスト16となりました。

先発の原田投手(歴史地理学科2年)は初回、制球を乱しますが、その後修正し5回まで無失点に抑えます。しかし6回、先頭打者にレフト前ヒットを浴びると、さらにツーベースヒットを打たれて先制点を奪われます。その後、南慶二郎投手(経営総合学科2年)に交代しますが、犠牲フライで1点を失います。その裏には清水捕手のレフトスタンドへの特大ホームランで1点を返しますが、終盤の8回に1点追加され、水谷健吾投手(国際学科4年)に代わるも富士大学の強打線を抑えられず、この回2点を失います。

〈試合ハイライト〉



先発の原田投手



清水捕手の特大アーチ

“全員野球”で掴んだ勝利

1回戦
6月6日

会場: 東京ドーム

対 九州産業大学
(福岡六大学野球連盟)

中部大学 5 - 1 九州産業大学

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
九州産業大学	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
中部大学	1	0	2	0	1	1	0	0	×	5

一方、先発の肥田投手は初回から順調な立ち上がりを見せ5回を1失点に抑える好投をし、6回からマウンドに上がった津波英太郎投手(国際学科1年)もMAX144キロの速球を武器に9回までで無失点に抑えました。攻守にわたってチームの結束力の強さを見せ、5対1で初戦を突破しました。

1回裏、2者連続フォアボールで得点圏にランナーを置き、廣田陽斗内野手(日本語日本文化学科4年)のツーベースヒットで先制点を取ります。3回にも川口航弥外野手(国際学科4年)の内野安打、続く村木陽亮外野手(歴史地理学科3年)のフォアボール、清水捕手のライト前ヒットでノーアウト満塁のチャンスを作り、再び廣田内野手のタイムリーヒットで追加点。続く水野壘偉内野手(経営総合学科3年)がタイムリーツーベースヒットを放ち、リードを広げます。

〈試合ハイライト〉



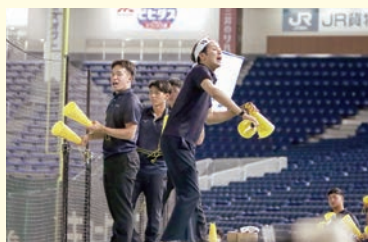
3安打2打点の廣田内野手



先発の肥田投手



シンフォニックバンドとチアリーダー部が応援に華を添える



得点が入った時に歌う「燃えよドラゴンズ!」は一体感が生まれる

全日本大学野球選手権大会の会場となった東京ドームには、硬式野球部員と硬式野球部OBの方々の他にシンフォニックバンドとチアリーダー部も駆けつけ、熱い声援を送っていました。中部大学の熱のこもった応援にはマスコミも注目し、SNSでも反響がありました。

熱い応援も注目!

令和5年度東海学生ハンドボール春季リーグ戦(男子)優勝、
第62回西日本学生選手権大会出場権獲得



東海学生ハンドボール春季リーグ1部に所属するハンドボール部は、攻守揃った完璧なプレーで他大学を寄せ付けず、最終戦を前に8勝0敗で1位となっていました。5月21日に行われた名城大学との最終戦では、引き分け以上で優勝が確定するということもあり、序盤は力が入りすぎて思うようなプレーができず、5対9とリードを許します。タイムアウトを取り選手同士で声を掛け合って気持ちを落ち着かせると、センター井上和哉選手(経営総合学科3年)を中心とした、速攻性のある攻撃で得点を重ね、前半を15対17と2点差で折り返します。

後半も立ち上がりから攻撃的なディフェンスとゴールキーパーの境駿太選手(経営総合学科4年)のファインセーブで勢いをつけ、谷前知優選手(経営総合学科4年)など5連続のゴールを含む怒涛の攻撃で一気に26対21と逆転。前半の力みも取れ、普段通りの落ち着いたプレーで相手を圧倒して35対28で勝利し、無敗の完全優勝を飾りました。

会場となった本学の講堂(体育館)には多くの保護者や在学生、教職員が駆け付け、熱い声援を送っていました。



第62回西日本学生選手権大会でも応援をよろしくお願いします!



8月8日からスカイホール豊田(愛知県豊田市)で開催される、第62回西日本学生選手権大会に出場します。本学はAグループでリーグ戦を戦い、1位となると決勝トーナメントに進出することができず。引き続き熱い応援をよろしくお願いいたします!



File.108

Can Thi Huyen
カン テイ フェンさん
情報工学科4年

A Friend

from Abroad



ベトナム (ハノイ)
北部に位置する都市で、ベトナムの首都。人口は約805万人で面積は3,328.9 km²。中部国際空港から直行便で約5時間の場所にある。工業の中心地で、農産物の集散地でもある。歴史ある建築物があり、東南アジアの他、中国、フランスなど海外の文化も入り交じり、ベトナムの政治・文化の中心地となっている。



ハノイ上空、本人が撮影



医療のプログラム開発に携わり、多くの命を救いたい

Q. これまでの経緯と学んでいることを教えてください。

日本のIT技術を学びたいと思い、ベトナムの高校を卒業し、日本で2年間日本語学校に通った後、中部大学の情報工学科に入学しました。学科では主にプログラミングやシステム開発を基礎から応用まで幅広く学んでいます。また、現在も日本語の勉強を続けていて、就職活動にも生かしたいと思い、日本語能力試験のN1を取得しました。論文を作成する時などにはまだまだ難しい専門用語が出てくるので、その都度所属している研究室の鈴木裕利教授に直接教えていただいています。

Q. 出身地について教えてください。

首都のハノイ出身です。ハノイは非常に暑いです。ハノイは夏だけのイメージがありますが、実は四季があります。夏の気温は40度ほどありますが、冬には8度くらいまで下がります。またたくさんのお寺があり、歴史のある町並みが魅力です。料理は、ライスヌードルのフォーや生春巻きが

有名で、ベトナムのサンドイッチ「バインミー」にはパクチー(コリアンダー)をたくさん入れて食べます。

Q. 趣味は何かありますか。

写真や動画を撮影することです。大切な人や大切な時間をきれいに保存したいと思い、ミラーレス一眼カメラで撮影しています。動画編集アプリを使って編集もしたいと思っているのですが、研究活動が忙しくなかなか編集までできていません。

Q. 日本での暮らしについて教えてください。

一人暮らしをしていて、ご飯はベトナム料理・日本料理どちらも作っています。日本の食べ物では横浜家系ラーメンが好きです。コンビニエンスストアでアルバイトをしています。接客を通して日本語の勉強になっていると思います。勉強などでパソコンの画面を長時間見ることが多いので、時々散歩をして外の風景を眺めています。元々運動も好きなので、とても楽しいです。

Q. 将来の夢を教えてください。

将来は日本で学んだ技術を母国に持ち帰り、ベトナムのシステム開発の発展に寄与したいです。特に医療機器のシステム開発に興味があります。きっかけは、家族に骨髄の病気が発覚したことです。ベトナムの技術では骨髄検査に1週間かかってしまうのですが、日本の技術では3日ほどで分かり、日本の技術の素晴らしさに感動しました。医療ITに携わりたくさんの命を救いたいと思っています。



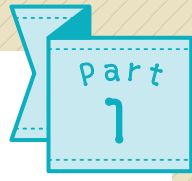
〈取材〉
学生編集委員
環境生物科学科3年
熊野 千菜

大学の 収入・支出分析



学校法人中部大学の2022年度決算は、5月30日の理事会で承認されました。本学園は、大学、高校、および中学校を有しており、その計算書類は学校法人会計基準により作成しています。

ここでは計算書類から大学部門の決算を抜粋して、その概要を報告いたします。



2022年度の中部大学の事業活動収支状況は【表1】のとおりです。学生生徒等納付金や経常費等補助金など経常的な収入から人件費や教育研究経費など経常的な支出を引いた「経常収支差額」は9億8百万円となりました。また、経常収支差額に当年度限りの臨時的な収入と支出(特別収支)を加味した「基本金組入前当年度収支差額」は10億3千3百万円となりました。2022年度は、経常的な収支と臨時要因を加えた全体の収支ともに収入超過であり、全体としては収支バランスのとれた決算であったといえます。

【表1】の経常収入の内訳と経常支出の内訳をグラフ化したものが経常収支構成図(グ

【表1】2022年度中部大学事業活動収支状況 単位:百万円

科目		決算額		
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	14,672	
		手数料	350	
		寄付金	307	
		経常費等補助金	1,586	
		付随事業収入	795	
		雑収入	623	
	教育活動収入計		18,332	
	支出	人件費	9,842	
		教育研究経費	6,294	
		管理経費	1,355	
徴収不能額等		13		
教育活動支出計		17,504		
教育活動収支差額		828		
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	129	
		その他の教育活動外収入	2	
		教育活動外収入計	132	
	支出	借入金等利息	52	
		その他の教育活動外支出	0	
教育活動外支出計		52		
教育活動外収支差額		80		
経常収支差額		908		
特別収支	収入	資産売却差額	11	
		その他の特別収入	247	
		内訳	施設設備寄付金	0
			現物寄付	121
			施設設備補助金	126
	特別収入計		258	
	支出	資産処分差額	132	
		その他の特別支出	0	
		特別支出計	132	
	特別収支差額		126	
基本金組入前当年度収支差額		1,033		
基本金組入額合計		△1,043		
当年度収支差額		△9		
(参考)	事業活動収入計		18,722	
	事業活動支出計		17,689	
	経常収入(教育活動+教育活動外)		18,464	
	経常支出(教育活動+教育活動外)		17,556	

皆さんが納めている授業料や入学金です。経常的な収入の約80%を占めています。

大学を支える教職員の給与および退職金等です。

教育研究活動に必要な経費で、教育や研究のために有効に活用しています。

経常的な収支のうち教育研究の収支です。

経常的な収支のうち財務活動の収支です。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額の計です。経常的な収支状況を表しています。

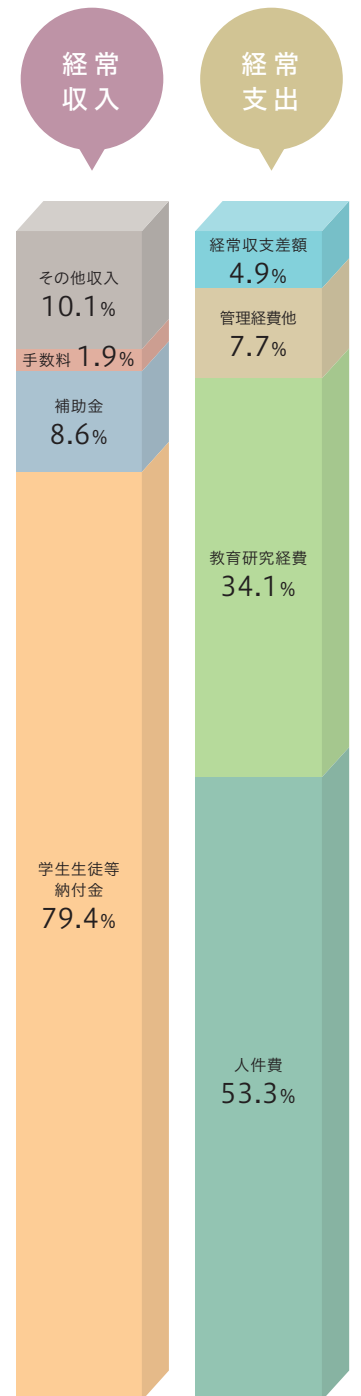
当年度限りの臨時的な収支状況です。

建物、備品、図書など将来を見据え、学校運営に必要な財産を取得した額です。取得額を収支差額から控除(マイナス表示)することになっています。

part
2

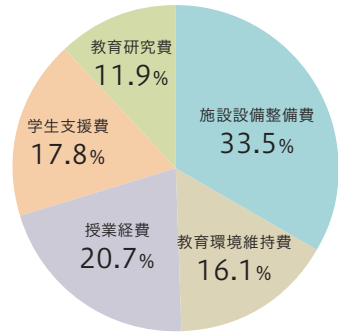
ラフ1】です。この図を見ると教育研究活動への影響が大きい「人件費」と「教育研究経費」に経常収入の88%を充てており、皆さんの学生等納付金をはじめとする収入が重点的に教育研究活動に使用されていることが分かります。

【グラフ1】経常収支構成図



【グラフ2】教育研究経費の明細

総額：62億9千4百万円



次に教育研究経費の使い道を目的別に見てみましょう。教育研究経費は全体で62億9千4百万円であり、その内訳は教育研究経費の明細【グラフ2】のとおりです。また、項目別の内容はそれぞれ次のようになります。施設設備整備費は建物や備品の整備・更新に充当される費用です。教育環境維持費は学生の皆さんが自主的に勉強を深める図書館などの運営経費や大学の情報通信環境の維持費などです。授業経費は授業を行うための教材費や光熱水費、またその運営を支援する事務部門の費用です。学生支援費は課外活動の支援、資格講座・就職講座の実施、健康診断、奨学金など皆さんの学生生活を支援している費用です。教育研究費は各研究所や先生方の研究のための費用で、企業等からの委託研究費もこの中に含まれています。

part
3

最後に本学と同規模大学の全国平均値（理工系複数学部）との比較をしてみましよう。

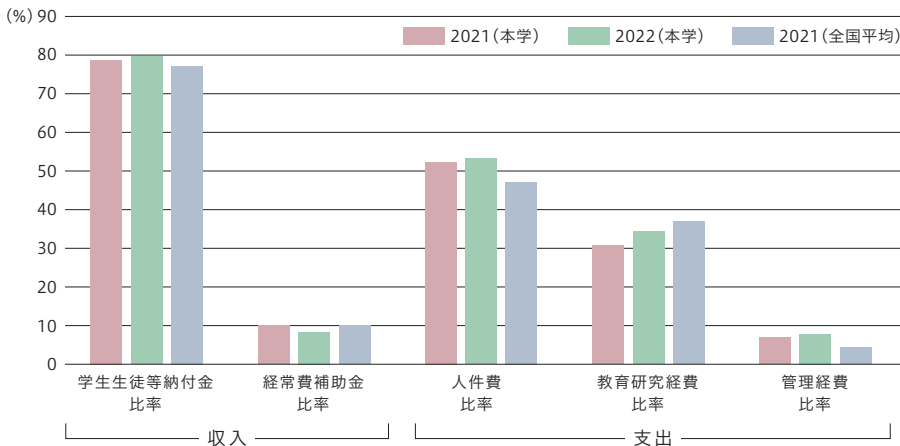
【グラフ3】の経常収入に対する構成比率比較図は、主要な項目について本学と全国平均値を比較したものです。

大学の主な収入である学生生徒等納付金と他大学とほぼ同様であることが分かります。

一方、支出については教育研究経費の比率が全国平均と比べてやや低く、人件費の比率が全国平均と比べてやや高くなっています。これは本学が他大学と比べてより多くの教員を配置していることを表しています。その結果、教員一人当たりの学生数が少なくなり、実習のサポートや少人数教育など、学生一人一人に対する活発な教育研究活動につながります。

今後とも教育内容の一層の充実に努めるとともに、バランスのとれた財務状況を目指し、学生生徒等納付金の有効な活用に努めます。

【グラフ3】経常収入に対する構成比率比較図





図書館探索



中部大学には地上3階、地下2階建の附属三浦記念図書館があります。

今回の学生編集委員のページでは学生編集委員が

実際に図書館内を探索し、レポートします！

基本情報

中部大学附属三浦記念図書館

述べ床面積:12,203.4平方メートル 蔵書数:約74万冊

ILL(図書館間の相互協力:Interlibrary Loan)により、Webサイトで他館から図書の取り寄せが出来ます！



1階

は、友人との相談やプレゼンテーションの打ち合わせに利用できるラーニングスペースがあり、SDGsに関するコーナーや、本学の学生が卒業までに取得可能な資格についての参考書などもあります。

1階にはメインカウンター、一般雑誌や新聞などがあるブラウジングコーナー、学生が選んだ本が並ぶ学生選書、参考図書コーナーなどの開架図書があります。フロアの最奥に

また大型図書や絵本もあり、教育実習などにも役立ちます。個人ブースが5部屋もあり、人目を気にせず利用しやすい空間になっています。

2階

2階には、人文科学や社会科学系を中心とした一般図書の他に、指定図書・文庫・新書の書架が並びます。



3階

自然科学、工学系の図書、学術雑誌の他、PCワークエリアがあり、自習用のPCが19台設置されています。Officeソフトが入っており、課題や論文の作成にも利用できます。メディアスペースには、語学や音楽用のCD、DVDなどの視聴覚資料があります。視聴覚資料は、3階のカウンターで館内貸出手続きを行うことで、視聴することが出来ます。



地下

地下1階には、古い書籍や利用の少ない図書などがあり、地下2階には、雑誌のバックナンバー、新聞、他大学の紀要が電動集密書架などで保管されています。また、机、椅子、コピー機、Wi-Fi、コンセントもあります。館内にはOPAC(蔵書検索)を利用できるPCが設置されすぐに本を探すことができます。地下の利用には3階のカウンターで申請が必要です。



ウプト学生編集委員の私たちが企画・取材しました



石樽 大宙
国際学科
4年



林 桃歌
現代教育学科
4年



飯田 ひとみ
現代教育学科
4年



熊野 千菜
環境生物科学科
3年



塚本 愛美
ロボット理工学科
2年



西岡 夏実
ロボット理工学科
2年



河村 明音
日本語日本文化学科
2年



伊藤 帆乃佳
日本語日本文化学科
2年



小林 愛実
日本語日本文化学科
2年



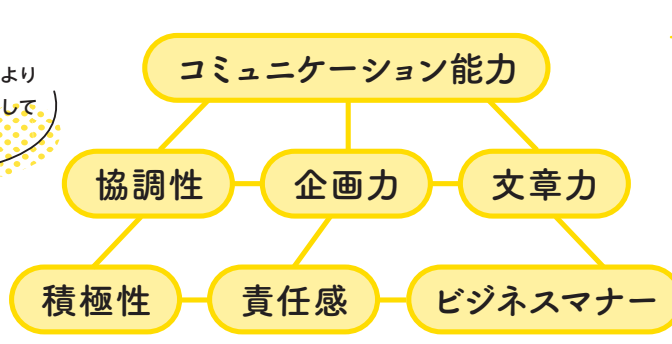
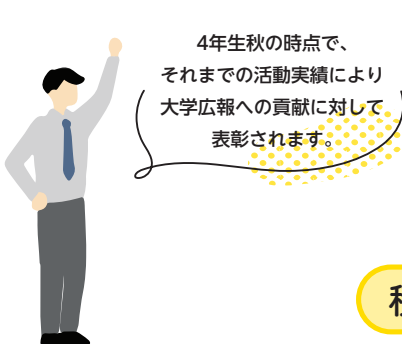
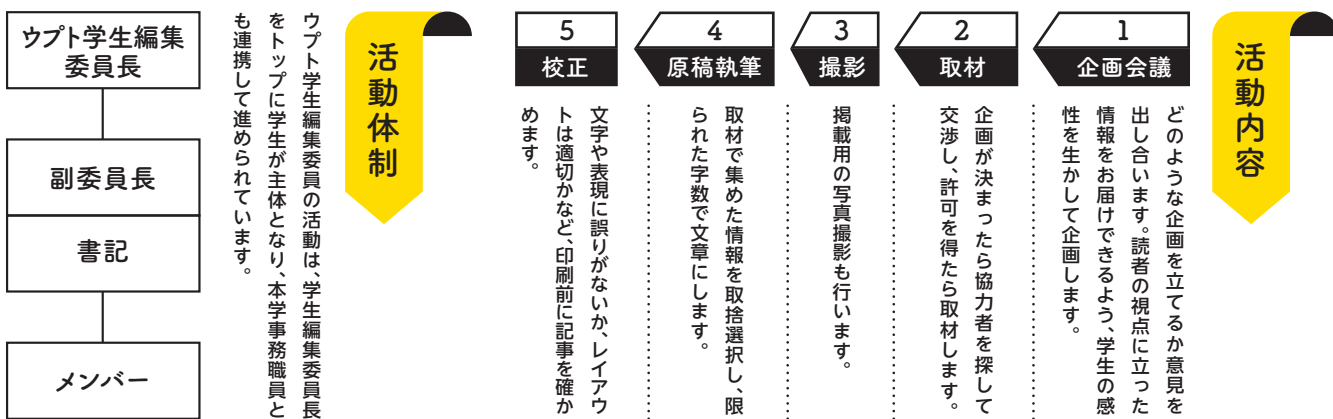
江口 心
日本語日本文化学科
2年

ウプト学生編集委員の活動を紹介します



ウプト学生編集委員って? /

ウプト学生編集委員は、本誌『ウプト』の編集の一端を担う学生です。「学生編集委員のページ」のコーナーをメインに担当し、学生ならではの目線で企画、取材などを行い広報誌づくりを支えています。また、留学生を紹介する「A Friend from Abroad」のコーナーやスポーツに関するトピックスを紹介する「CU Sports Spirit」でもインタビューに挑戦し、文章を執筆しています。企画の楽しさや、伝えたいことを発信し、形にできる喜びがウプト学生編集委員にはあります。



ウプト学生編集委員の声

体験談

VOICE 1

石樽 大宙さん
活動歴 / 2年7カ月

ウプト学生編集委員の会議では、議事の進め方や、効果的な質問の仕方、そしてそれらをまとめる資料の作り方が身に付きました。また取材と原稿の執筆では、就職活動だけではなく、学科での発表やレポートなど日常生活でも大切なコミュニケーション力と文章力が身に付いたと思います。特に出版社や記者など、文章に携わる仕事に就きたいと考えている人にお勧めです。

VOICE 2

飯田 ひとみさん
活動歴 / 0年8カ月

私はウプト学生編集委員のページの企画・取材以外に、クラブのインタビューや理事長と学長、同窓会長との座談会に参加などさまざまな経験をさせていただきました。普段は、学部の棟に留まっていますが、学生編集委員になり、取材を通して大学の新たな一面を知ることができました！訪れたことのない場所まで足を運んだり、さまざまな人と会話する機会ができ、本当に楽しいです！

VOICE 3

西岡 夏実さん
活動歴 / 0年4カ月

まだ学生編集委員になって日が浅く1回しか取材をしていませんが、自分が気になることや、今まで知らなかったことを直接会って聞くことができ、普段味わうことのない体験ができることが楽しいです。私は人と話すことが苦手でしたが、今後はもっと自分から質問をするなど、仲間と協力し貢献できるよう頑張りたいと思いました。

中日新聞記者との意見交換会を行いました

6月7日午後、不言実行館ACTIVE PLAZA5階クリエイティブ・ラボCで中日新聞社教育報道部の日下部弘太記者とウプト学生編集委員との意見交換会が開催されました。初めに学生編集委員副編集委員長の林さんがウプト学生編集委員の活動内容について説明し、その後意見交換が行われました。意見交換では学生編集委員が日下部記者に「文章を書く上で気をつけること」や「論理的に文章を書くコツ」などについて質問をしました。また、AIを利用した記事の作成についても議論され、学生編集委員が利用しているAIサービスやChatGPTを使った大学の講義についての話題に、日下部記者も関心を寄せていました。

最後に、日下部記者から取材と記事の執筆のポイントについてお話しいただきました。熱心にメモを取り、資料をスマホで撮影する姿も見られ、今後の学生編集委員の活動に生かす有意義な会となりました。



2023年度 ウプト学生編集委員(敬称略)

学生編集委員長



石樽 大宙
国際学科
4年

学生編集副委員長



林 桃歌
現代教育学科
4年

書記



河村 明音
日本語日本文化学科
2年



飯田 ひとみ
現代教育学科
4年



塚本 愛美
ロボット理工学科
2年



伊藤 帆乃佳
日本語日本文化学科
2年



江口 心
日本語日本文化学科
2年



伊藤 優磨
言語文化学専攻修士課程
1年



熊野 千菜
環境生物科学科
3年



西岡 夏実
ロボット理工学科
2年



小林 愛実
日本語日本文化学科
2年



阿部 倫弥
歴史地理学科
1年

ウプト
学生編集委員
大募集!

特に1・2年生を歓迎しますが、学年は問いません。いつからでも始められます。少しでも関心のある方は、学園広報部制作課(2号館1階)までお越しください。電話、メールでもお問い合わせ可能です。

☎ 0568-51-4465 (学園広報部制作課直通)

✉ seisaku@office.chubu.ac.jp

▶ 学生による発信もチェック!

ウプト学生編集委員Twitter
<https://twitter.com/wpwtgakusei>



中部大学のスポーツに関するトピックスを紹介する「CU Sports Spirit」

今回は男子最多優勝となった基礎スキー部をウプト学生編集委員が取材しました！



基礎スキー部 東海学生基礎スキー連盟 最多優勝！

基礎スキー部

1988年創部。
部員数男子37人、女子10人。
(2023年6月現在)

Q1

基礎スキー部の活動内容について教えてください。

基礎スキーはスキー競技の一種で、フォームやスピードなどを採点し、その得点を競うスポーツです。基礎スキー部では春夏はサブグラウンドで筋力強化のトレーニングを中心に、サッカーやしっぽとりゲームなどのゲームを用いて楽しみながら行なっています。冬は長野県木曾郡にあるスキー場で滑りの練習をしており、大会前の2月には1カ月間スキー場で合宿をします。

Q3

全日本スキー連盟公認準指導員検定の合格について教えてください。

安藤捺稀(環境生物科学科4年)、大村峻馬(スポーツ保健医療学科3年)、東隆太郎(歴史地理学科3年)の3人は全日本スキー連盟公認準指導員検定を取得しました。滑りのクセを直すことと、他人を指導する時により分かりやすく伝えたいと思える資格の取得を目指しました。検定内容は実際に教える実技試験のほか、スキーの歴史、大会でのコース作り、ケガの応急処置などに関する筆記試験があります。この検定を受けてから滑りのクセも取れ、先輩に分かりやすく指導できるようになりました。

Q2

第44回東海学生基礎スキー選手権大会での活躍について教えてください。

2023年2月21〜24日に、長野県山ノ内町のよませ温泉スキー場で開催された第44回東海学生基礎スキー選手権大会に出場し、男子王座戦で総合優勝、女子王座で準優勝の成績を収めました。新型コロナウイルス感染症の影響により練習時間があまり取れず不安もありましたが、初心者の新入生に合わせるよう意識し、大会では息の合った滑りができました。この優勝で男子は東海学生基礎スキー連盟で最多優勝となりましたが、これは先輩方の活躍があつてこそです。

基礎スキー部では赤色のスキーウェアを着用しているのですが、創部以来一度も変えていません。そのため、スキー場の方には着用しているウェアで中部大学と分かっていただけで、とても親切にしてください。優勝後には竹内芳美学長にも報告に行きました。活躍を喜んでくださりうれしかったです。



立松 聖菜さん ロボット理工学科4年(後列中央左)、加藤 兼悟さん 情報工学科2年(後列中央右)
大村 峻馬さん(前列左)、東 隆太郎さん(前列中央)、安藤 捺稀さん(前列右)

取材:ウプト学生編集委員

飯田ひとみ 現代教育学科4年(後列左端)、熊野千菜 環境生物科学科3年(後列右端)

わが クラブ

ソフトボールクラブ

Club News No.194

白球に熱い思いを 乗せて



皆さん、こんにちは。ソフトボールクラブです。

現在は、選手・マネージャー合わせて19人が在籍しており、水曜日のP.S.H.には春日井市内の熊野グラウンドで、金曜日の4コマ目の授業の後には大学のサブグラウンドで練習をしています。

東海地区大学ソフトボール連盟に加盟しており、春と秋に東海地区大学リーグ戦があります。現在は2部リーグに所属しており、1部リーグ昇格を目標にしています。また、連盟主催の一般大会では社会人チームなど、大学生以外とも試合をします。格上のチームも多く手強いですが、果敢に挑戦しています。

指導者がいないので、練習メニューは自分たちで考えて取り組んでいます。メンバー同士で技術を教え合い、時にはひいきのプロ野球チームのことやゲーム、好きなアイドルの話などの雑談も交えながら楽しく、そして和気あいあいと練習しています。皆で食事会や、遊びに出かけるなど、練習以外でもメンバー同士の交流が盛んで、仲がとても深まります。

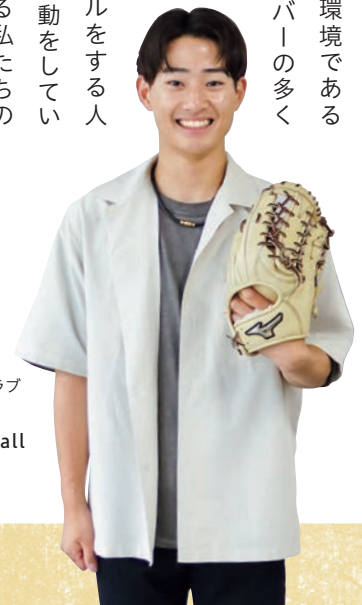
他大学と交流する機会も多く、名城大学や東海学園大学、名古屋大学といった県内の大学はもちろんのこと、静岡大学などの県外の大学とも練習試合をしています。

ソフトボールクラブ最大の魅力は、初心者でも公式戦で活躍で

きるほど上達できる環境であると考えています。メンバーの多くは高校野球や高校ソフトボールの経験者ですが、大学入学後に初めてソフトボールをする人や、今まで文化系の活動をしていて初めて運動系である私たちのクラブに入部する人もいます。先輩や同学年の経験者から教わって試行錯誤しながら練習に取り組む姿勢は、チームへの帰属意識や士気を高めてくれます。中には練習用具を自費で購入して持ってくるほど、熱い思いを持っているメンバーもいます。この勢いをもっと高めるべく、部員・マネージャーを常時募集しています。

InstagramのDMや練習中に気軽にお声掛けください。


一緒にソフトボールを楽しみましょう！



ソフトボールクラブ代表
歴史地理学科 3年

黒野 流生

中部大学ソフトボールクラブ
Instagramアカウント

 @chubu_softball

ようこそ

わが研究室へ

vol.180

環境生物科学科
長谷川浩一研究室

線虫と宿主の関係性と 生体防衛反応について研究

長谷川研究室では線虫を研究対象とし、地球上のさまざまな生物の間で見られる寄生・共生・病原性といった関係性についての研究から、動物に備わる生体防衛反応や寿命・老化の基礎研究など、幅広いテーマに取り組んでいます。線虫とは、生物学のモデル生物である *C. elegans* (尿から癌検診ができる線虫種)、動・植物寄生性線虫、あるいは昆虫病原性線虫など、多様性の高い動物グループです。

私は学部1年生のときに講義で聞いた昆虫病原性線虫について興味を持ち、長谷川研究室を志望しました。学部生の頃から「線虫と細菌の共生進化と生物農薬への応用」に関する研究をしており、大学院でも継続しています。

研究室では遅くまで実験に打ち込むメンバーも多く、また学年関係なく意見交換も活発に行われ、各々が持つ仮説や実験計画について何時間も議論が続くことがよくあります。新型コロナウイルスの流行が落ち着き、最近ようやくバーベキュー大会や「ムシの日」イベントへの出展など、さまざまな研究室のイベントも再開されました。学生同士が刺激し合い、研究生活、大生生活ともに有意義で楽しい時間を作り上げていきたいと思っています。



ゼミ生レポート



応用生物学研究科
応用生物学専攻博士前期課程1年

杉山 大騎

ゼミ生に
ひとこと



環境生物科学科
はせがわ こういち
長谷川 浩一 教授

研究室に配属になると、一人1つの研究テーマを決め、先輩や仲間たちとディスカッションしながら実験を進め、頑張っ卒業論文を完成させます。大変なのですが、この1年間で大きく成長し、どの業界でも通用する力が身に付きます。大学院に進学してさらに研究力に磨きをかけることで、国内外の研究者たちと対等に渡り合えるよう鍛えられますし、国際誌へ投稿することを目指します。生物学の研究を通して教育を実践します。

先生はこんな人

長谷川先生はとても親しみやすく、われわれ学生の知的好奇心や熱意に応えてくださいます。行いたい実験を立案して相談に何うと、否定されることなく、むしろそのような実験から面白い発見が得られるかもしれないと、伸び伸びと前向きに実験をさせてもらえます。また、質問には、さまざまな角度から幅広くご意見を頂けて助かっています。



私の学生時代

人間力創成教育院語学教育プログラム(英語)
国際センター
ケビン・ジャンボル 講師



学びを通して知る自分

「大きくなったたら何になりたい?」
という問いは子どもの時から苦手だっ
た。子どもの私より聞き手の大人の方
が分かるのではないかと思ったので、
聞かれたら周りの真似をして、適当に
答えていた。

アメリカ同時多発テロ事件の2年
後に高校卒業を迎え、戦争に行く友達
もいたが、私は周りを真似て大学へ。
オハイオ大学に入学したら、形を変え
てまたその質問「どの専攻にします
か」と。18歳の私は、とりあえず幅広い



▲ 国際ストリート・フェアで踊ったソーラン節(前列右端が筆者)



▲ インターナショナル
ストリートフェアでのBBQ



▲ 恩師の出口先生と
オハイオ大学の校の前で(右側が筆者)

リベラルアーツ教育
に飛び込み、自分を
見つけ出そうとした。
1年次は生物学科の
必須科目を学びなが
ら、人間とはどう生
きるのか、どう自分
を発見するのかの問
いに向き合っていた。
しかし、微生物の知
識のみではその答え
には辿り着けないと
いう結論に達した。

2年次からは、寮の友達と難しそう
な日本語を勉強することにした。日本
語プログラムのトムソン先生、出口先
生にお世話になり、そして一生の友達
にも出会った。日本語の勉強をし始め
た1年目に日本人学生会が開催する
桜フェスティバルのMCを務めたが、
数百人の観客を前にして手が震え、原
稿の字が読めなくなったこともあっ
た。哲学入門の授業でソローの『森の
生活』を読んだ。「我々にとって、ほん
の一瞬お互いの目を通して見るとい
うこと以上に大きな奇跡が起こりうる
だろうか?我々は、世界のすべての時
代をたつたの合間で生きることになる
だろう。そう、あらゆる時代のあらゆる
世界を。」という引用に魅かれたが、
まだ自分の心に迷いがあり、十分に理
解できていなかったように思う。

結局、3年次ギリギリまで専攻を
迷ったが、単位数の関係から言語学科
に入った。生物学に比べて言語の勉強
は、単純に楽しかった。人間とはどう
生きるべきかという問いは、時空を隔
てた人々の言葉を学ぶ喜びに比べた
ら、どうでもいいことのように思えた。
自己を見つけるのに苦労した学生時
代だったが、さまざまな学びを経て、
卒業時には自分ではなく他人や、他言
語、異文化に一生懸命向き合っていれ
ば、自分が何者なのか分かってくる
のだと思えた。2年次の哲学の授業で
は理解できなかったソローの『森の生
活』の好きな引用をやつと自分で理解
できたと感じた。自分より、相手の母
語で相手のことを尊重して向き合え
ば、この奇跡に到達できなくても、近
づくはずだと信じている。

Free Talk
私にも書かせて



経営総合学科4年
安井 文香

ビジネスプラン コンテストを通じて 感じた成長



33FGビジネスプランコンテスト2022学生コースで最優秀賞(右側が筆者)

私は約10カ月間にわたり、

「ビジネスプランコンテスト」に向けてさまざまな活動をしました。ビジネスプランコンテストとは、参加者がビジネスプランを作成してプレゼンテーションを行い、新規性や独創性、実現可能性などの観点からその優劣を競うものです。私は視覚障がい者の方々が利用する点字ブロック(視覚障がい者誘導ブロック)の修復・撤去の依頼を行うことも、どこでもアプリで簡単に行うことができるプランを考

案しました。

プラン作成において、最も力を入れたことは情報収集です。調べていく中で、点字ブロックの修復基準がないことや全国の点字ブロックが未だにJIS規格として標準化されていないことから、政府や行政が障がい者への取り組みを疎かにしている、先延ばしにしているからこのような状態になっているのではないかと考えました。実際に視覚障がい者の方々に話を伺ったところ、点字ブロック以外に

チームのメンバーと協力し、

満足のいくビジネスプランを努力して完成した結果、三十三銀行主催のビジネスプランコンテストでは「最優秀賞」を受賞、ICTビジネス研究会主催のビジネスプランコンテストでは東海大会に出場し、「SDGs賞」を受賞することができました。審査員の方々には、私たちのチームが最も力を入れた情報収集についてお褒めの言葉をいただきました。私自身も、他のチームに差異をつけることができたのは、収集した情報の多さとその分析力だと考えています。視

も日常生活で不自由を感じていることは、私たちが想像している以上に多くあることが分かりました。障がい者への取り組みが後回しにされてしまう社会の認識を変える必要を痛感しました。

この活動を通じて、学生の私でも社会や地域に貢献することができると実感し、さらに、「自分軸」を見つけることができました。私は誰かのために行動し、社会や地域に貢献することにより、自分が感じます。そして、「ビ

ビジネスプランコンテスト」に参加し、入学当初と比べて見違えるほど成長することができたと感じています。自分の成長は時に勇気になり、自信にもなります。私は春日丘高校を卒業して中部大学、趙先生の研究室で学ぶことができて本当に良かったと思っています。

大学生活を通じて何かを得たかと考えている人、今までと違うことをしてみたいけれど一歩踏み出す勇気を持っていない人。経営総合学科の趙偉ゼミでビジネスプランコンテストに参加し、さまざまな経験をしてみませんか？



プレゼンの様子(左側が筆者)



中部電力パワーグリッド株式会社

益田 晃太郎さん

2016(平成28)年度電気システム工学科

(現・電気電子システム工学科)卒業

2018(平成30)年度大学院工学研究科電気電子工学専攻
博士前期課程修了

憧れの職場で働くために

「電力会社で働くことが夢でした。幼い頃に『電柱になりたい』と言っていた記憶があります」と笑顔で語るのは、中部電力パワーグリッド株式会社松本営業所に勤務する益田晃太郎さん。電力会社を志望したのは電気工事士である父親の影響だった。

「生活に欠かせない電気の供給を支える父の姿はとてもカッコよくて憧れました」。父と同じ設備・整備の道も考えたが、父の会社の発注元で中部エリアの電力会社最大手である中部電力で設計の仕事をしたと考えるようになった。夢を叶えるために電気の勉強をしたいと、本学電気システム工学科(現電気電子システム工学科)に進学した。

「大学では山本和男先生の研究室で高電圧を学び、企業と連携して雷の電流を発生させる装置を製作しました。就職後に活躍するためにはもっと知識が必要だと思ったので、大学院に進学しました」。明確な目標に向けて本学で着実に力をつけ、見事に夢を実現させた。

人々の生活を支える配電設備を設計

益田さんは入社以来、電気を住宅に引き込む配電の設計を担当し、既存の

配電線の改修、電柱の移設設計なども行ってきた。

「配電はお客様の生活に直結する大事な設備です。安心して電気を利用できるように、土地の地盤、周辺の環境などに合わせて電柱の強度や立てる場所、配電線の引き込み位置を変えるなど、さまざまな要因を考慮して設計をしています」

自分が設計した現場には必ず足を運び、工事が円滑に進むよう、建設過程を見ながら施工業者と改善点を話し合うという。「現場に行くのは好きですね。実際に施工の様子を見ることで設計の改善点を見つけられます」。お客様と施工業者からの要望に応えるため、何度も図面を描き直すことも。

「電柱の建設時には地下を2~3mほど掘削するため、水道管やガス管を傷つけないように事前に各会社から情報を提供してもらいます。古い土地などは記録が残っていないことがあり、掘ってから設置できないと分かることもあります。その場合はもう一度図面を描き直さなければなりません。大変なこともあります。自分が設計したものが形になって何十年とその地域を支えるというのにやりがいを感じています」

災害から電力利用を守るために

2023年7月からは保守部門に異動となった。電力設備の故障時には昼夜を問わず、復旧作業を現場に具体的に指示する業務を担う。

「交通事故による電柱の破損だけではなく、台風や地震など自然災害の多い日本では保守作業が欠かせません。何かトラブルが起きて電気の供給が絶たれた時に、一刻も早く復旧できるように努めたいです」

目標を持つことが努力につながる

幼少期からの夢を叶え、生き生きと働く益田さん。「夢だった仕事ができ、頑張ってきて良かったと思っています。自分の経験から言えることですが、目標があるとそれに向けて頑張れるので、できるだけ早い時期から何か1つ目標を立てると良いと思います。もしなければ、学生のうちにいろいろな経験を積んで見つけてほしいですね」と学生の皆さんにエールを送る。

CAMPUS NEWS

全学学科対抗スポーツ大会

6月14日午後、第21回全学学科対抗スポーツ大会が開催され、全学科の学生645人以上が参加した。競技はメイングラウンドでチャンバラ合戦、サブグラウンドでドッチビーが、学内各所で謎解き脱出ゲームが行われた。

大会開始前にはチアリーダー部によるパフォーマンスも披露された。また、放送研究会の学生が中心となって、大会の様子がYouTubeで生中継された。



総合優勝

経営総合学科

チャンバラ合戦

- 1位 保健看護学科
- 2位 経営総合学科
- 3位 スポーツ保健医療学科

ドッチビー

- 1位 建築学科
- 2位 経営総合学科
- 3位 スポーツ保健医療学科

謎解き脱出ゲーム

- 1位 環境生物科学科
- 2位 宇宙航空理工学科・宇宙航空学科連合チーム
- 3位 日本語日本文化学科

キャンパス鬼ごっこ

5月13日午前、夢・チャレンジ『ちゅとラボ』の学生企画プロジェクト、ワンキャンパス鬼ごっこが開催され、学生48人が参加した。新入生が逃走者、先輩が鬼となり、途中に発出されるミッションをこなしながら、約100分間学内に設けられたエリア内を逃げ回った。



Chubu Walk

クラブ運営委員会が主催するChubu Walkが5月13日に行われ、学生60人、教員2人が参加した。岐阜県恵那市にある中部大学研修センターから春日井キャンパスまでの約44キロを、途中に設けられた休憩ポイントで体を休めながら完歩を目指すのが、2023年度は途中から降り出した雨のため多治見駅までの約30kmで解散となった。



春日井市消防団 中部大学機能別分団入退団式

5月25日午後、不言実行館ACTIVE PLAZA1階アクティブホールで、春日井市消防団中部大学機能別分団入退団式が行われ、スポーツ保健医療学科の4年生10人が退団し、新たに同学科の1年生10人が入団した。春日井市からは春日井市消防本部の消防長、消防団長らが出席した。宣誓書は、1年生の浅田裕也さんが読み上げた。学生消防団は、任務を限定した「機能別分団」で、避難誘導や応急救護などを担当する。



父母との集い

3、4年生の保護者を対象とした父母との集いが開催された。6月17日は工学部、経営情報学部、国際関係学部の保護者264人が、6月24日は人文学部、応用生物学部、生命健康科学部、現代教育学部の保護者253人が参加した。全体会では西川和範後援会長と竹内芳美学長のあいさつの後、学生生活や就職活動支援について講演があった。その後、学科説明会があり、希望者には学科教員との個別面談が行われた。また、学生による「キャンパスツアー」や学食体験も行われ、多くの保護者が参加した。



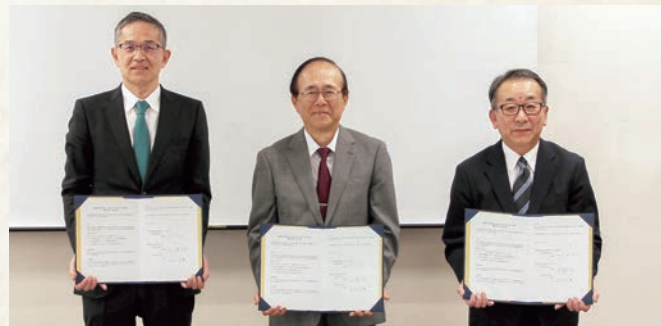
能楽鑑賞会

5月17日午後、三浦幸平メモリアルホールで、中部大学日本伝統文化推進プロジェクトの「能楽鑑賞会」が開催され、学生228人が参加した。シテ方観世流能楽師の久田三津子氏が曲目と能装束について解説した後、演目「紅葉狩」の公演が行われた。



本学工学部・理工学部と 川崎岐阜協同組合が連携協定を締結

5月11日午後、工学部と理工学部、川崎岐阜協同組合による、人材育成、産業振興などの分野で協力、相互の発展を目指すための連携協定締結式が7号館3階工学部ファカルティルームで行われた。川崎岐阜協同組合から井上良介理事長、本学から武藤敬副学長(工学部長)、池田忠繁理工学部長らが出席した。



左から池田理工学部長、武藤副学長、井上理事長

本学と富山市、富山市ファミリーパークが 連携協定を締結

5月25日午後、本学と富山市、公益財団法人富山ファミリーパーク公社による、希少動物の飼育繁殖技術の研究・開発環境教育に関する連携協定の締結式が富山市役所で行われた。この協定は生物多様性の保全に寄与することを目的に締結され、富山市から藤井裕久市長、ファミリーパークから美濃部雄人理事長、本学から竹内芳美学長らが出席した。



左から美濃部理事長、藤井市長、竹内学長

新1年生の森2023

学生サポートセンター主催の新1年生の森が、4月26日と5月3日の午後、不言実行館 ACTIVE PLAZA2 階スチューデント・コモンズで開催され、新入生延べ40人と学生サポーター延べ20人が参加した。施設紹介やレクリエーションを実施し、他学科の学生と交流を深めた。



コミュニケーション学科 柳谷啓子・柘和佑研究室が こまき産業フェスタ2023に出展

5月27・28日、パークアリーナ小牧で「こまき産業フェスタ2023」が開催され、コミュニケーション学科の柳谷啓子研究室が制作、出版したSDGs絵本『じょうろん じょうろくん』の読み聞かせと、柘和佑研究室と共同制作のこまきこども未来館4階「ニコニコひろば」の大型壁面演出映像を紹介した。



あつまれ!!わんぱく隊

5月13日午前、地域の年中～小学2年生の子どもを対象に、あつまれ!!わんぱく隊が70号館1階ラウンジなどで開催された。2023年度の1回目となるこの日は「色で遊ぼう」をテーマに、学生23人と参加した子どもたちが一緒に共同製作を行った。あつまれ!!わんぱく隊は保育士や幼稚園教諭、小学校教諭を目指す学生が主体となり、2023年度は全4回開催される。



理工系教育圏ライティング・ プレゼンテーション塾

5月10・24・31日午後、不言実行館ACTIVE PLAZA2階学生・コモンズで理工系教育圏ライティング・プレゼンテーション塾が開催され、学生延べ27人が参加した。



第27回学生選書

6月10日、三省堂書店名古屋本店で第27回学生選書が開催され、学生14人が参加した。授業に必要な本や新しい参考書などを書店で学生自身が選ぶことができ、指定の選書基準を満たせば学生に代わって図書館が購入する。このツアーで173冊を購入し、図書館1階閲覧カウンター前の学生選書コーナーに並べる予定。



第13回法律カフェ

不言実行館運営委員会主催で、6月21日午後、「第13回法律カフェ『ちょっと待って!その転売、大丈夫?～フリマと法律問題～』」が不言実行館ACTIVE PLAZA5階クリエイティブ・ラボBで開催され、学生21人が参加した。本学客員教授の田中淳子愛知学院大学社会連携センター教授と本学客員教授で弁護士の浅賀哲同センター教授らと転売行為についてグループワークで学んだ。



経営総合学科清水研究室× 食品栄養科学科香西研究室が オークワとのコラボ弁当試作品作り

5月24日午後、7211調理実習室で経営総合学科の清水真研究室と食品栄養科学科の香西はな研究室が株式会社オークワとコラボした弁当の試作品作りを行った。試作したお弁当は9月27日にお披露目会を行い、その後、春日井市内のオークワ店舗で発売予定(発売日は未定)。



告知

第60回 中部大学祭

統一テーマ「Lively」11月3日(金)~5日(日)

主なプログラム

- 恒例の「研究発表展」、「学生・クラブ有志企画」、「ステージ企画」「模擬店」など今年も開催
- 目玉行事1日目は「4時間自転車耐久レース」
2日目は「中部大学杯eスポーツ大会」

その他、多彩なプログラムを予定。中部大学祭実行委員会一同、皆さまのご来場を心よりお待ちしております。


告知

中部大学フェア2023

開催日時 9月14日(木) 午前10時~午後3時30分

プログラム

- 特別講演
「産業用ロボットが創る近未来の製造業」
ファナック株式会社 取締役会長 稲葉 善治氏
会場: 不言実行館ACTIVE PLAZA1階アクティブホール
- ブース形式によるポスターセッション
- ミニ講演会
- 技術相談・知的財産相談 など




第34回 清掃キャンペーン

5月24日午後、第34回清掃キャンペーンが行われた。C.U.P. (Clean Up Project in Chubu Univ.)の学生を中心に約100人が参加し、キャンパス各所を清掃した。



ひとり暮らし入門

学生相談室主催で、1回目は5月24日午後ひとり暮らし入門「情報交換会」が、2回目は6月21日に「ソロ活クッキング」が行われ、学生延べ28人が参加した。



星空かんさつ会

6月9日午後、天文台天体観測所で星空かんさつ会が行われ、一般参加の親子23人と、学生9人がサポートスタッフとして参加した。1023講義室で手作り望遠鏡の工作を行った後、天体観測所で観測会を行った。

Random Shot 第193回

大学の良さを伝えたい



入試広報課
牧野 文香さん

“推し活”をするのが趣味。推しているアイドルのコンサートに行くのが楽しみだが、最近は人気が急上昇中でチケットがなかなか取れないのが悩み。

「中部大学の魅力が大勢の人に伝えていきたいです」と語るのは、入試広報課の牧野さん。進学説明会での高校生や保護者への説明、中部大学公式LINEの運営、教員向け進学説明会のイベント運営など、本学の魅力を発信する業務を担う。進学説明会では、100人以上の前で話すことも。「大勢の人の前で話すことはとても緊張しますが、説明会の後に高校生や保護者の方から『中部大学、とても良い大学ですね』と褒めていただけると、やりがいを感じます」。LINEの運営では、タイムリーにかつ見やすい発信を心がけているという。「LINEは高校生の目線に立ち、視覚的に分かりやすいよう、イラストや画像を多く発信しています。テキストメッセージでは絵文字を使用して親しみやすいようにしています」。受け取る相手に合わせて柔軟に対応している。

大学生の自由さを楽しんで

本学経営総合学科の卒業生でもある牧野さん。「高校生の頃は、大学に興味がありませんでした。親の勧めもあり、中部大学に入学したら4年間すごく充実していて、進学して、卒業して良かったと心から思いました」。その後、就職活動を行う中で、自分と同じように「中部大学に来てよかった」と学生に思ってもらいたいと、本学職員の間へ。

学生の皆さんへ「私は学生時代、勉強以外にも司会業のアルバイトを頑張っていました。人前に立つ仕事の多い今はその経験が生かされていると思います。勉強だけではなく、それ以外の経験も今後の人生で役立つ時が来るかもしれません。さまざまな人と関わり、いろいろな経験を積んで大学時代を楽しんでください」とメッセージを送る。



うら話



硬式野球部とハンドボール部の優勝報告会



▲佐野大陽硬式野球部主将
(日本語日本文化学科4年)による報告



▲谷前知優ハンドボール部主将
(経営総合学科4年)による報告



シンフォニックバンドの演奏▶



▲メインストリートを会場に向かう部員たち

5月26日、不言実行館ACTIVE PLAZA前で、硬式野球部とハンドボール部の優勝報告会が行われました。

午後1時頃、硬式野球部とハンドボール部がメインストリートから不言実行館ACTIVE PLAZA前の特設ステージに登場。シンフォニックバンドの演奏とチアリーダー部が華を添え、在学生・教職員が拍手で迎えました。

報告会では家泰弘学校法人中部大学総長のあいさつの後、硬式野球部主将が春季リーグの優勝報告と全国大会の意気込みを、ハンドボール部主将が春季リーグの優勝報告と西日本大会の意気込みを語りました。会の最後には竹内芳美学長から激励の言葉もありました。終了後には、同館1階エントランスに設置された応援メッセージボードに記入をする部員もあり、これから始まる新たな戦いに向け大学全体で士気を高める貴重な機会となりました。

編集 後記

硬式野球部の試合取材した際、選手だけでなくスタンドで最大限に声を張り応援する学生の姿にとっても胸を打たれました。またChubu Walkの取材では運営と救護担当のクラブ運営委員会とスポーツ保健医療学科救命コースの3年生が、参加者の安全に細部まで気を配っている姿が見られました。忙しい日々の中、全力でサポートする学生を見ると身が引き締まる思いです。学生を見習い、日々の業務に全力で取り組みたいと思います！

中部大学通信 ウプト No.226

発行日/2023年7月31日
発行/中部大学ウプト編集委員会
編集/学園広報部 制作課
〒487-8501 春日井市松本町1200
<https://www.chubu.ac.jp/>
Tel:0568-51-4465(制作課直通)
E-mail:cuinfo@office.chubu.ac.jp